



2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年2月4日

上場取引所 東

上場会社名 東邦化学工業株式会社
 コード番号 4409 URL https://toho-chem.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中崎 龍雄
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経理本部長 (氏名) 井上 豊 (TEL) 03-5550-3735
 四半期報告書提出予定日 2021年2月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績 (2020年4月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	29,475	△7.2	745	△50.2	680	△40.9	392	△54.6
2020年3月期第3四半期	31,775	△7.1	1,497	△9.9	1,151	△19.1	864	△7.8

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 1,108百万円(57.7%) 2020年3月期第3四半期 703百万円(△16.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	18.41	—
2020年3月期第3四半期	40.54	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	56,626	14,367	25.2
2020年3月期	53,298	13,580	25.3

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 14,295百万円 2020年3月期 13,509百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	0.00	—	15.00	15.00
2021年3月期	—	0.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想 (2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	40,000	△5.1	1,100	△45.2	1,000	△40.5	600	△56.5	28.13

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 有

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年3月期3Q	21,350,000株	2020年3月期	21,350,000株
2021年3月期3Q	21,990株	2020年3月期	21,990株
2021年3月期3Q	21,328,010株	2020年3月期3Q	21,328,028株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルスの感染症拡大に伴う国内外の経済活動の停滞により、第1四半期は景気が急速に悪化しましたが、その後は社会経済活動の再開に伴い徐々に持ち直しの動きが見られました。しかし、新型コロナウイルス感染症の収束は未だ見通せず、むしろ冬場からの感染急拡大による年明けの緊急事態宣言の再発出が、景気回復にブレーキをかけることも懸念され、当面は、不透明で厳しい環境が続くことが予想されます。

化学業界におきましても、自動車をはじめとする多くの産業分野で需要が減少し、事業環境は悪化しました。半導体関連材料の需要は堅調を維持しており、自動車生産等では回復の動きが見られますが、多くの産業分野ではコロナ禍以前の水準への需要回復にはなお時間を要することが予想されます。一方で、中国経済の回復等により一部の原料価格に上昇の動きがみられ、本格的な需要回復に先行して原料調達コストが増加することによる収益への悪影響が懸念されます。

このような経営環境下、当社グループにおいても自動車市場向け製品をはじめ、幅広い分野にわたって需要が落ち込みました。第1四半期を底に、第2四半期から第3四半期にかけては回復の兆しが見られましたが、前年同期との比較では依然として低調が続き、当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比2,300百万円、7.2%減収の29,475百万円と、大幅な減収となりました。

損益面につきましては、大幅な売上の減少による収益の悪化に加え、原材料価格の急落に伴って第1四半期に計上した在庫評価損(517百万円)及びたな卸資産の評価方法の変更に伴う損益へのマイナス影響(88百万円)もあり、当第3四半期連結累計期間の営業利益は、前年同期比752百万円減益の745百万円、経常利益は前年同期比470百万円減益の680百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比471百万円減益の392百万円となりました。

セグメント別の状況は次のとおりです。

(界面活性剤)

香粧原料は、洗剤向けの一般洗浄剤やシャンプー用基剤の販売が増加した一方、リンス・コンディショナー用基剤等の販売が低調で減収となりました。プラスチック用添加剤は、乳化重合剤等の落ち込みを主因に減収となりました。土木建築用薬剤は、コンクリート用関連薬剤等が振るわず減収となりました。農薬助剤は、国内外ともに販売が好調で、大幅な増収となりました。繊維助剤は、中国での販売は堅調を維持したものの国内販売が振るわず減収となりました。紙パルプ用薬剤は、消泡剤や脱墨剤が低調で減収となりました。

その結果、当セグメント全体の売上高は、前年同期比1,226百万円、6.9%減収の16,557百万円となり、セグメント利益は、前年同期比439百万円減益の627百万円となりました。なお、セグメント利益の中には在庫評価損299百万円が含まれております。

(樹脂)

石油樹脂は、大口ユーザーでの生産調整を主因に減収となりました。合成樹脂は、冷蔵機器用断熱ウレタンフォーム原液等が不振で、減収となりました。樹脂エマルションは、フローポリッシュ用等が低調で減収となりました。

その結果、当セグメント全体の売上高は、前年同期比378百万円、16.8%減収の1,879百万円となり、セグメント損失は、38百万円(前年同期はセグメント利益84百万円)となりました。なお、セグメント損失の中には在庫評価損19百万円が含まれております。

(化成品)

合成ゴム・ABS樹脂用ロジン系乳化重合剤は、国内外ともに自動車関連需要が落ち込み、減収となりました。金属加工油剤は、水溶性切削油剤の大口ユーザー向け販売が低調で、減収となりました。石油添加剤は、国内外ともに不振で、大幅な減収となりました。

その結果、当セグメント全体の売上高は、前年同期比717百万円、18.5%減収の3,153百万円となり、セグメント利益は、前年同期比100百万円減益の12百万円となりました。なお、セグメント利益の中には在庫評価損52百万円が含まれております。

(スペシャリティーケミカル)

溶剤は、ブレイキ液基剤の販売の落ち込みを主因に減収となりました。電子情報産業用の微細加工用樹脂は、半導体関連の販売が堅調で増収となりました。アクリレートは、中国市場での販売は前期比増加したものの、国内販売が振るわず減収となりました。

その結果、当セグメント全体の売上高は、前年同期比23百万円、0.3%増収の7,830百万円となり、セグメント利益は、前年同期比38百万円減益の204百万円となりました。なお、セグメント利益の中には在庫評価損143百万円が含まれております。

なお、上記の各セグメント利益又は損失の前年同期比の数値は、後記P. 9(セグメント情報)「報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報」の表における「報告セグメント」の比較情報です。

その他に、各セグメントに帰属しない調整額(棚卸資産の調整額等)が△49百万円(前年同期は△1百万円)あります。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、56,626百万円と前期末比3,327百万円の増加となりました。その内訳は、流動資産が1,204百万円増加の30,748百万円、固定資産が2,122百万円増加の25,877百万円です。

流動資産の主な増減要因は、現金及び預金が511百万円の増加、受取手形及び売掛金が1,008百万円の増加、たな卸資産が452百万円の減少、前渡金の増加を主因とするその他(流動資産)が143百万円の増加です。

固定資産の主な増減要因は、有形固定資産が1,532百万円の増加、無形固定資産が43百万円の増加、投資その他の資産が546百万円の増加です。

一方、負債合計は42,258百万円と前期末比2,540百万円の増加となりました。主な増減要因は、支払手形及び買掛金が215百万円の増加、短期借入金が643百万円の増加、未払法人税等が262百万円の減少、賞与引当金が317百万円の減少、設備関係支払手形や未払金の増加を主因とするその他(流動負債)が1,085百万円の増加、長期借入金が1,013百万円の増加、退職給付に係る負債が199百万円の増加です。

純資産は、14,367百万円と前期末比787百万円の増加となりました。主な増減要因は、利益剰余金が、配当金の支払いと親会社株主に帰属する四半期純利益との差額の72百万円の増加、その他の包括利益累計額が713百万円の増加です。

その結果、自己資本比率は25.2%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、製品需要が全般的に前回予想を上回るペースで回復していること、また、東邦化学(上海)有限公司において、外貨建て債務に係る為替差益が発生したこともあり、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、いずれも前回予想を上回る見通しです。

その結果、2020年11月6日の「2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」で公表いたしました2021年3月期の通期連結業績予想を変更しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,001	9,512
受取手形及び売掛金	9,992	11,001
たな卸資産	9,981	9,528
その他	568	711
貸倒引当金	△0	△5
流動資産合計	29,543	30,748
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,992	9,642
機械装置及び運搬具(純額)	2,343	4,089
土地	3,145	3,145
建設仮勘定	2,471	702
その他(純額)	2,410	2,316
有形固定資産合計	18,364	19,896
無形固定資産	1,119	1,162
投資その他の資産	4,271	4,817
固定資産合計	23,755	25,877
資産合計	53,298	56,626

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,326	7,542
短期借入金	6,491	7,135
1年内償還予定の社債	1,920	1,920
未払法人税等	278	16
賞与引当金	521	204
その他	2,974	4,059
流動負債合計	19,511	20,877
固定負債		
社債	2,700	2,700
長期借入金	10,131	11,145
退職給付に係る負債	5,443	5,642
資産除去債務	63	64
その他	1,867	1,827
固定負債合計	20,206	21,380
負債合計	39,718	42,258
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,755	1,755
資本剰余金	896	896
利益剰余金	9,555	9,628
自己株式	△6	△6
株主資本合計	12,201	12,273
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	875	1,578
為替換算調整勘定	800	786
退職給付に係る調整累計額	△367	△343
その他の包括利益累計額合計	1,308	2,021
非支配株主持分	71	72
純資産合計	13,580	14,367
負債純資産合計	53,298	56,626

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	31,775	29,475
売上原価	26,291	24,821
売上総利益	5,484	4,653
販売費及び一般管理費	3,986	3,908
営業利益	1,497	745
営業外収益		
受取利息	3	7
受取配当金	71	73
物品売却益	32	29
その他	38	81
営業外収益合計	146	191
営業外費用		
支払利息	148	182
為替差損	236	10
損害賠償金	33	—
その他	74	63
営業外費用合計	493	256
経常利益	1,151	680
特別利益		
投資有価証券売却益	2	37
子会社清算益	128	—
特別利益合計	130	37
特別損失		
固定資産廃棄損	57	43
投資有価証券評価損	—	5
特別損失合計	57	49
税金等調整前四半期純利益	1,223	668
法人税等	358	272
四半期純利益	865	395
非支配株主に帰属する四半期純利益	1	3
親会社株主に帰属する四半期純利益	864	392

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	865	395
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△16	702
為替換算調整勘定	△161	△13
退職給付に係る調整額	15	24
その他の包括利益合計	△162	713
四半期包括利益	703	1,108
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	706	1,106
非支配株主に係る四半期包括利益	△3	2

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(たな卸資産の評価方法の変更)

従来、製品は総平均法に基づく原価法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より移動平均法に基づく原価法に変更しております。

この変更は、より迅速かつ適時な期間損益計算を行うことを目的とした新基幹システムの導入を契機として評価方法の見直しを行ったものであります。

なお、過去の連結会計年度について、移動平均法による計算を行うことが実務上不可能であり、遡及適用した場合の累積的影響額を算定することができないため、前連結会計年度末の帳簿価額を当連結会計年度の期首残高として計算しております。

この変更により、従来の方と比べて、当第3四半期連結会計年度末のたな卸資産の中の製品が88百万円減少しており、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ88百万円減少しております。

また、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。

(追加情報)

2021年3月期第1四半期決算短信の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	界面 活性剤	樹脂	化成品	スペシャ リティー ケミカル	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	17,783	2,257	3,871	7,806	31,719	56	31,775	—	31,775
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	152	152	△152	—
計	17,783	2,257	3,871	7,806	31,719	209	31,928	△152	31,775
セグメント利益	1,067	84	113	243	1,508	△9	1,498	△1	1,497

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、環境調査測定・分析及び物流倉庫業務等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△1百万円には、棚卸資産の調整額△29百万円等が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	界面 活性剤	樹脂	化成品	スペシャ リティー ケミカル	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	16,557	1,879	3,153	7,830	29,419	55	29,475	—	29,475
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	109	109	△109	—
計	16,557	1,879	3,153	7,830	29,419	165	29,585	△109	29,475
セグメント利益 又は損失(△)	627	△38	12	204	805	△11	794	△49	745

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、環境調査測定・分析及び物流倉庫業務等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△49百万円には、棚卸資産の調整額△41百万円等が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 会計方針の変更(たな卸資産の評価方法の変更)による影響額△88百万円の内、報告セグメント及びその他のセグメント利益又はセグメント損失(△)に△52百万円含まれており、調整額のセグメント利益又はセグメント損失(△)に△36百万円含まれております。なお、報告セグメント及びその他のセグメント利益又はセグメント損失(△)△52百万円の内訳は、界面活性剤△58百万円、樹脂△28百万円、化成品△3百万円、スペシャリティーケミカル30百万円、その他5百万円であります。